

非常によく発達し、柱頭のまわりを取り巻いているためである。このずい柱の構造は、花粉媒介昆虫との特殊化したポリネーションのモードを予想させる。

□ Klucking, Edward P.: **Leaf venation patterns Vol. 1. Annonaceae** 256 pp., 140 pls. 1986. J. Cramer, Stuttgart. DM 220. 著者はカリフォルニア大学の古植物研究者である。植物葉の遺体の同定には葉脈の細部のパターンが有力な形質として用いられ、系統論にも利用される。これは古植物にかぎらず、われわれが葉一枚でもその種を同定できるのは、葉脈パタンの情報が大きい寄与をしていることは疑いない。その基礎資料として現生種の葉脈標本 (Cleared-leaf specimen) の作成と蓄積が行われている。本書は葉脈パタンのモノグラフを意図するもので、Annonaceae の 128 属のうち 104 属の記述と葉脈の写真がのせられている。記述は属単位で、Predominant venation pattern, Description, Representative species, Comments の項に分けてある。「葉脈は正確な計測や記述がやりにくいものの一つである」と書いてあるとおり、Description は苦心の作だろう。Comment は属の特徴となる形質について特記したものである。Predominant venation pattern は葉の生長段階を 1. 頂端生長の盛んな段階, 2. 支脈を出して横方向に発達する段階, 3. 細脈を形成して完成する段階に分け、どの段階が成葉のパタンにどの程度かわかるかを短く述べたものである。Annonaceae はわが国のフロラにはほとんど関係ないが、海外調査研究、系統論などには有用であるし、このシリーズの先行きによっては分類学、形態学研究室には必備のものとなるだろう。タイプオフセット印刷で、こういう本の出版のむずかしさが感じられる。序文によると著者は 10 年の勤務に対して一年間与えられる sabbatical year を 2 回利用して、欧州の標本室で本書に関する研究をしたそうで、日本のわが身の環境とくらべてうらやましいことである。またわが国でもこの種の研究は古生物学者が精力的にやっているのに、分類や形態の研究室では周囲の雰囲気によってやりにくい傾向があるように見受けられるのは残念である。現在やっておられる方々は、あきらめないで押し通してもらいたい。

(金井弘夫)

□ 訂正 本誌 62 巻 10 号 22 頁所載の文献紹介、進野久五郎植物コレクションの収載誌名および発行機関の記述に誤りがありましたので、下記のとおり訂正します。

誤: 富山市科学技術センター

正: 富山市科学文化センター

なお富山市科学文化センターの所在地は 〒939 富山市西中野町 1-8-31 (電話 0764-91-2123) です。不注意のためご迷惑をおかけしましたことを、お詫びいたします。

(金井弘夫)